

阿弥陀堂門

阿弥陀堂門は、東本願寺で最も目立つ 2 つの門のうちの 1 つで、烏丸通りに向かって開いている。正門である御影堂門よりは小さいが、より豪華な門である。その特徴は、湾曲した破風と起伏のある破風板で、優雅さと高貴さを表現している。破風の下の青銅製の装飾部分には吉祥の動植物が描かれている。また、屋根には日本古来の屋根様式である檜皮葺が使われている。

門によく見られる木製の敷居がなく、東本願寺の宗派である浄土真宗の教えが誰にでも開かれていることを象徴している。現在の門は、1864 年の火災で消失した建物の代わりに 1911 年に完成したもので、その先にある阿弥陀堂との位置関係がやや中心からずれている。これは、門の前の道路に合わせて建てられたからだ。以前はその道が門に直結していたが、現在は交通量の多い烏丸通りによって両者は隔てられている。